

資料番号	-01-001-01	-01-007-01	-01-008-01	-01-021-01	-02-001-01
調査年月日	2012/9/4	2013/6/17	2013/6/18	2013/6/17	2013/6/17
調査者	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色地 摻染綿布	染色地 摻染綿布	染色地 摻染綿布	染色地 摻染綿布	染色地 摻染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿纖維
	タテ	木綿	木綿	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色	白色地にプリント 赤、緑、黒(緑地に赤 オーバープリント99)	黒、グレイ、青	赤地色 摻染柄 9色	黒、グレイ、青
	染料・顔料		顔料		
	タテ				捺染柄
	ヌキ				
加工技法	織技法	平織、巾巾	木綿の平織 細い糸で構成されている	木綿の綾織	木綿の平織 細い糸で構成されている
	染技法	捺染、顔料、赤、黒、 グリーン、白地 ローラー捺染ではないか、しかし柄合わせ不良、模様も手抜きではないか	ローラー捺染 生地の斜行による歪みが多い	ローラー捺染 顔料又は塩基性染料タンニン媒染	ローラー捺染 生地の斜行による歪みが多い
	その他		ロールずれによる形ずれが見られる		ロールずれによる形ずれが見られる
文様		花柄のスカーフ用柄	黒を基調とした格子状スカーフ柄	スカーフ柄 周囲に花柄多く配置	花柄 黒を基調とした格子状 スカーフ柄
形状	35×31 cm	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31×35cm 元布の4分の1
用途	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項					
調査所見					
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦				
	横				
	織耳				
備考					1910年鶴巻鶴一教授寄贈品

資料番号	-02-002-01	-03-001-01	-03-009-01	-03-022-01	
調査年月日	2012/9/4	2012/11/4	2013/6/25	2013/9/20	
調査者	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	
名称	染色地 挿染綿布	染色地 挿染綿布	染色地 挿染綿布	染色地 挿染綿布	
糸	素材 木綿繊維 タテ 木綿 又キ 木綿	木綿 木綿 木綿	木綿 木綿 木綿	木綿 木綿 木綿	
色	地色 黒字色に柄色赤、黄、2色 染料・顔料 タテ 又キ	白地色 挿染柄5色 黒、赤、青、緑、グレー 顔料	白地色 挿染柄6色 顔料	一色紺地捺染柄 顔料	
加工技法	織技法 木綿平織 染技法 黒染め地色染色(アニリン黒では色少し異なる)後、着色抜染と推定される。地色は分析不能のため判断できず。 その他	木綿平織 ローラー捺染 赤色の枠内部部分はぼかし染になっている。ロール彫刻にてぼかしにしている	木綿平織 経糸が細い糸で構成されているが緯糸は太い糸、細い糸が混合している。 ローラー捺染 生地表面にシュライナーかれんだーにて光沢を出している	木綿平織 ローラー捺染 本来多色の捺染柄であり、複数の捺染ロールで準備され、複数の色数の捺染柄であったがそれを紺一色に染める為複数色ロールを使って一色で染め上げたものであり、糸目柄や地色ローズのズレが見られる(一色では不必要)	
文様	水玉に線組合せ幾何模様		花柄 スカーフ用柄	花柄、線柄	
形状	三角形 底辺27X高さ28の三角形	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	裂地標本 31.5×35.0cm 元布の4分の1	
用途	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ	
特記事項	平地、経4枚綾・緯5枚濡子地紋、紋棠門不明、紋丈25.5cm、二種の地経と二種の地経を交代させて用い、赤×赤、白×赤、赤×黄土、白×黄土、の四種の地合と白×黄土、赤×黄土、白×赤、及びその細織違いで地紋6種を作り出している。	平地、緯浮地紋、絵緯(全越)緯8枚 朱子文錦、紋棠門、紋丈不明		地経・地緯による浮紋と綾地紋で著した地紋(緞子)織物。 紋丈: 62mm 紋力マ: 33mm	
調査所見				AN25-2-02-008、AN25-2-04-005、AN25-2-07-002は、地緯色違いの同裂又AN25-2-03-003は同裂	
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦 横 織耳		147 519	240 510	102 55
備考	付札、表)abzarine Red 裏)) Bootesal Aniline sodo -Fabrik handur Jsfober a Rein				

資料番号	-03-023-01		-04-001-01	-04-006-01	-04-015-01
調査年月日	2013/8/20		2013/625	2013/3/19	2013/7/23
調査者	生谷 吉男		生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色地 挪染綿布		染色地 挪染綿布	染色地 挪染綿布	染色地 挪染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿
	タテ	木綿	木綿	木綿	木綿
	ヌキ	木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色	赤地色 挪染柄茶色 3色(黒、赤、黄色)	白地色(全体にグレー汚れ) 挪染6色(黒、赤、青、緑、ページュ)	白地色 挪染柄 焦茶1色	白地色 挪染柄 茶色
	染料・顔料	顔料		顔料	顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工技法	織技法	木綿平織(キャリコ)	木綿平織	木綿の平織 細い糸で構成されているが太細が多くみられる。	木綿の平織
	染技法	ローラー捺染と推定、黒は顔料 特に黒色はローラーの繊細な彫刻による細かい粒状の捺染技法推定 前もって生地に黄色の浸染、またはパッドする。ナフトールAS類で下漬ほ一パッド一乾燥後、ローラー捺染にて黒の顔料、濃淡の赤のナフトールソルト類を捺印している。この頃は日本の染工場ではナフトールソルトを捺染工場でジアゾ化溶解して糊料に混合して捺染糊としてようしていた。	ローラー捺染、赤の花やグリースの部分はボカシに染まっているがローラーの彫刻の際に彫刻を浅くした部分はローレットが浅く、糊料の持ちが少なくなっており、深い部分は糊料が多くなって完全に染まる。	ローラー捺染 焦茶一色の顔料捺染 全体に色のいらつき模様があり、彫刻の深さによるむら状の模様になっている	ローラー捺染 顔料繊細な線が表現しているが細い線の彫刻を観察すると線が断絶したり、太線が出来ている。彫刻が粗末!
	その他				仕上げ加工では生地表面にペーシュライナー加工(光沢加工)が施されている。
文様	文様	ベズリー模様 中に小さい黒色点を多く配置	花柄と幾何模様 スカーフ用柄	花柄と幾何模様 スカーフ用柄	幾何模様
	形状	裂地標本 32×35cm 元布の4分の1	裂地標本 17×75cm(生地幅×17cm)	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項					
調査所見		花柄の半エッチング ローレットの酸処理の途中で核部分をニスで埋めて型に含まれる糊料を減らしてボカシにする。			
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦		裂地標本 17×75cm(生地幅×17cm)	315	320
	横		裂地標本 34×8.0 cm	350	354
	織耳				
備考					

資料番号	-04-020-01	-05-001-01	-05-004-01	-05-031-01
調査年月日	2013/7/23	2012/9/4	2012/9/4	2012/11/20
調査者	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色地 挿染綿布	染色地 挿染綿布	染色地 挿染綿布	染色 挿染綿布
糸	素材 木綿 タテ 木綿 ヌキ 木綿	木綿	木綿	木綿
色	地色 白地色 挿染柄 黒色 染料・顔料 顔料 タテ ヌキ	白地に濃淡紫、 ダーク黄、濃淡緑	白地に茶色と黒色、赤色三 色で構成	白地色 挿染柄 赤色、 青、チャコールグレーイ 色
加工 技法	織技法 木綿薄地の平織	綾織、二綾	木綿の平織 薄地生地	木綿の平織 経糸細い 糸、緯糸太い糸で構成さ れている。3本の糸綾状 に製織 裏面を起毛
	染技法 ローラー捺染 顔料 織細な線 が表現されているが細い線の彫 刻の限界に挑戦している。細さ の限界線の先に注目	ローラー仕上げ捺 染と推定 色料は 顔料(検鏡による) 仕上げ加工として シュライナー加工 による表面艶出し 加工実施	機械捺染と推定、小さな雲 柄が無数にあってその雲柄 に0.1~2mmのまる模様が無 数にあり、織細な機械捺染 の2度染で茶色の雲柄を捺 染した上に黒赤の2色を オーバー捺染している。色 料は顔料による。先の点状 捺染の技術は良、後捺染は 可	ローラー捺染 顔料使い 裏面に1mm角の細かい 線が斜めに捺染
	その他 仕上げ加工では生地表面に ペーパーカレンダーにより表面 が平らになっており、光沢加工 (物理加工)がされている。			
文様	幾何模様 織細な線描きの図柄 で一部分で彫刻の限界が試さ れている	花柄	幾何模様 スカート柄の縁 取り	チェック柄に少々変形
形状	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の 4分の1	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分 の1
用途	スカーフ	スカーフ、壁布	スカーフ、壁布	スカーフ
特記事項				
調査所見		本品は捺染なるも スクリーン捺染に よりローラー捺染 によるものと推定	本品はローラー捺染による ものと推定	
製作地				
製作年				
織名称				
法量	縦 320	320	320	295
	横 350	350	345	350
	織耳			
備考				

資料番号	-05-032-01	-05-032-01	-05-039-01	-05-047-01
調査年月日	2012/11/20	2017/2/21	2017/2/21	2013/7/9
調査者	生谷 吉男	佐藤 忠孝	佐藤 忠孝	生谷 吉男
名称	染色 摻染綿布	染色標本(捺染模様)木綿手巾墨	染色標本(捺染模様)木綿手巾墨	染色 摻染綿布
糸	素材 タテ 又キ	木綿 木綿 木綿	綿 74 54	綿 74 54
色	地色 染料・顔料 タテ 又キ	赤地色 摻染柄 青、白抜き 顔料	3色 (赤、紺、白)	5色 (赤、青、黄、白、黒) 顔料
加工技法	織技法 染技法 その他	木綿の平織 太い糸、細い糸混在、太細に捺糸部が混在。 ローラー捺染 顔料 抜染によるものハレーションが出ている。織細な線、(細い小さな円の部分)	平織 「返し」ローラ捺染	平織 着色抜染、ローラ捺染 カレンダーによるペーパーカレンダーによる表面加工されている
文様	チェック柄スカーフ柄	格子のパネル柄		花柄のスカーフ柄連続
形状	裂地標本 元布の4分の1			裂地標本 元布の4分の1
用途	スカーフ	手巾	手巾	スカーフ
特記事項		地赤に表裏の濃度差があることから、直接捺染と思われるが、「紺」「白」との接点にシャープさを欠き、「紺」の型際にブリードが認められる。これは差し色の糊に過剰な防染糊が含有されていた場合に起こりがちな現象である。「紺」の中の白は生地白と思われる。「赤」と「紺」は通常の直接捺染のような「型合せ」が行はれたが、差し色に含まれる防染剤の影響で重色による異色が生じなかつたと思われる。以上から直接捺染と「返し」(注釈4)の併用と考えられる。		
調査所見			地色の黒色に表裏の濃度差がなく、「抜染」と考えられる。抜染面積が大きいが、均染性に優れている。	
製作地				
製作年				
織名称				
法量	縦 横 織耳	300 350	350 300	270 330
	備考			

資料番号	-06-009-01	-06-012-01	-06-018-01	-06-024-01
調査年月日	2012/11/20	2017/2/21	2013/7/9	2013/7/16
調査者	生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色 挿染綿布	染色標本(挿染模様)木綿手巾墨	染色 挿染綿布	染色 挿染綿布
糸	素材	木綿 厚手生地	綿	木綿
	タテ	木綿	74	木綿
	又キ	木綿	54	木綿
色	地色	白地色 挿染柄 黒2色	3色(焦茶、茶、地紋茶)	白地色 挿染柄茶色3色
	染料・顔料	顔料		顔料
	タテ			
	又キ			
加工技法	織技法	木綿の平織 経糸細い目の糸、緯糸は太めの糸で構成されている。	平織	木綿の平織 薄手の生地で細い糸で構成されている。
	染技法	ローラー挿染 黒顔料使い 生地裏面に黒点 1mmの縦縞に一面の黒点が規則正しく並んでいる	ローラー挿染	ローラー挿染 顔料織細な線
	その他			ローラー挿染 顔料使用(黒、青緑) 織細な線、(細い小さな円の部分)
文様		チェック変形	幾何模様に格子柄	幾何模様 中に小さい黄色円を多く配置
形状		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途		テーブルクロス	手巾	スカーフ
特記事項				
調査所見		表裏にペーパーカレンダー処理により光沢と毛伏せ	地紋の彫刻が素晴らしい。不規則な割り付けにありがちな粗密の偏りがなく、又レピート性や方向性も見受けられず、非常に高度な彫刻技法である。	水浸みで黒色顔料が染み出している。
製作地				
製作年				
織名称				
法量	縦	340		304
	横	320		350
	織耳			
備考				

資料番号	-06-026-01	-06-032-01	-07-002-01	-07-003-01	-07-009-01
調査年月日	2013/7/16	2013/7/16	2017/2/28	2012/7/31	2012/8/7
調査者	生谷 吉男	生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色 挿染綿布	染色 挿染綿布	染色標本(捺染模様 木綿手巾類)	染色 挿染綿布	染色 挿染綿布
糸	素材	木綿	木綿	木綿	木綿
	タテ	木綿		75 木綿	
	ヌキ	木綿		64 木綿	
色	地色	白地にオーバー捺染 挿し色10色	薄茶地色 挿染柄茶色 さし色 黄、白、中間茶 色3色	2色 (茶、赤)	白地色 挿染柄
	染料・顔料	顔料	顔料		顔料
	タテ				
	ヌキ				
加工 技法	織技法	木綿の平織 細い糸で構成されている金巾	木綿の平織 細い糸で構成されている。	平織	木綿の平織 細い糸で構成されているが太細が多く見られる。
	染技法	ローラー捺染 顔料 織細な線、地の赤は色泣きしている。	薄茶地色は浸染 ローラー捺染 茶色3色 顔料 白色は抜染、黄色は着色抜染 織細な捺染技法が見られる	ローラー捺染、直接捺染	ローラー捺染
	その他		仕上にシュライナーカレンダーにて光沢仕上げを行っている。シュライナー加工の表面凸凹が見られる。		
文様	ペズリーと花柄	幾何模様 中に小さい黄色円を多く配置	パネル柄	花柄変形リボン 周囲 中は点を8.5mm 司法で数多く配置	花柄 広い送りがある
形状	裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1		裂地標本 元布の4分の1	裂地標本 元布の4分の1
用途	スカーフ	スカーフ	手巾	スカーフ	
特記事項				重色が殆どなく、型際がきわめてシャープである。「型合わせ」の難しい柄であるが、「型狂い」の欠点も許容範囲に収まっている。素晴らしい捺染技術である。	
調査所見					
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦	320	320	310	315
	横	350	350	350	350
	織耳				
備考					

資料番号	-07-010-01	-07-034-01	-08-003-01	-08-011-01	-08-012-01
調査年月日	2012/8/7	2017/2/28	2013/7/9	2013/3/19	2013/3/19
調査者	生谷 吉男	佐藤 忠孝	生谷 吉男	生谷 吉男	生谷 吉男
名称	染色 挿染綿布	染色標本(捺染模様木綿手巾類)	染色 挿染綿布	染色 挿染綿布	染色 挿染綿布
糸	素材 木綿	綿	木綿	木綿	木綿
	タテ 80		木綿	木綿	木綿
	又キ 75		木綿	木綿	木綿
色	地色 白地に赤色捺染柄	6色 (紫、青、緑、赤、淡赤、 橙)	白地色 捺染柄茶 色 指し色黄色1色	黒地色 捺染柄 赤、緑、ピンク 色 薄ブルー色	黒地色 捺染柄
	染料・顔料		顔料	顔料	顔料
	タテ				
	又キ				
加工技法	織技法 平織	綾織	木綿の平織 細い 糸で構成されてい るが太細が多く見 られる。	木綿平織	木綿平織
	染技法 一色の幾何模様 捺染	ローラー捺染、直接捺染(一部 「返し染法」)	ローラー捺染 顔 料 織細な線(細い 小さな円の部分)	ローラー捺染 地色浸染に対し ローラー捺染に て顔料の直接 捺染と着色(顔 料)抜染による 染色	ローラー捺染 顔料 白、赤線の一部赤花 色部分が抜染されて いる。赤線部分に抜 染のハレーションが 見られる。
	その他 シュライナーカレンダー加工(艶出し)				
文様	幾何模様	パネル柄	幾何模様 中に小 さい黄色を多く配 置		花柄、線柄
形状	裂地標本 元布 の4分の1		裂地標本 元布の 4分の1	裂地標本 元布 の4分の1	裂地標本 元布の4分 の1
用途	服地	手巾	スカーフ	スカーフ	スカーフ
特記事項					
調査所見		「緑と橙」「緑と紫」の型際は他 色の型際、例えば「紫と橙」に 比べると非常にシャープである ことから、「返し染法」が適用さ れ、その他は通常のオーバー 捺染と思われる。			
製作地					
製作年					
織名称					
法量	縦 770		320	320	315
	横 295		330	340	350
	織耳				
備考					